

平成20年度
総合評価方式の実施報告
(工事)

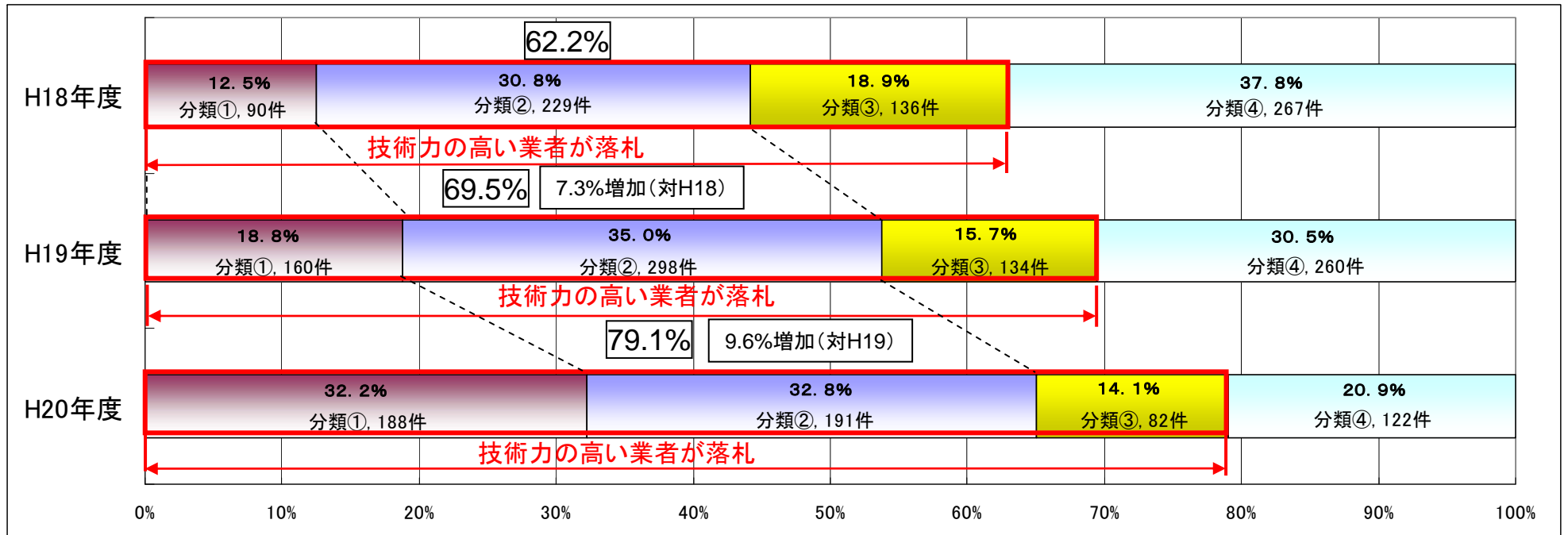
平成21年3月12日

中国地方整備局

1. 総合評価方式の結果分析

落札者の状況(全体)

○技術力が上位の者が逆転落札した割合(分類①)は、平成18年度から年々増加。
 ○技術力の高い業者が落札した割合(分類①～③の累計)も、平成18年度から増加傾向。
総合評価方式導入による技術力競争が定着してきたものと考えられる。



- ①入札価格が最低でなく、技術力が上位の業者が落札(逆転ケース)
- ②入札価格が最低で、最良提案者が落札
- ③入札価格が最低で、加算点取得率が満点の50%以上
- ④入札価格が最低で、加算点取得率が満点の50%未満

※技術力の高い業者とは、加算点取得率が50%以上の者と定義。(H20落札者全体の平均加算点取得率:50.7%)
 ※加算点取得率は、施工体制評価点を除いたもので算出している。
 ※H20年度は、4～12月末までに契約した工事件数。

2. 施工体制確認型総合評価方式の実施結果(全体)

平成20年度から、原則として予定価格1千万以上の全ての工事を対象に施工体制確認型総合評価方式を適用。

- ◆H21年1月末時点(契約ベース)で計94件の低入札工事が発生したが、このうち施工体制確認型総合評価方式を適用した工事で87件が低入札者以外が逆転落札し、7件が低入札調査へ移行し、7件が低入札工事として契約した。
- ◆以上から、低入札対策として有効に効果が現れている結果となっており、引き続き来年度も同条件で適用を行うこととする。

施工体制確認型総合評価方式の実施状況

(H20.4.1~H21.1.31契約分)

工種	全工事件数	施工体制確認型 実施件数 (①)	低入札発生件数 (②) (=③+④+⑤+⑥)		施工体制確認型				施工体制確認型以外	
			件数	発生率	②のうち、 施工体制確認 後、 低入札者以外が 逆転落札した件 数 (③)	②のうち、 施工体制確認 後、 低入札調査(重 点、特別重点)へ 移行した件数 (④)	うち、低入札(重 点)調査後、契約 した件数	うち、低入札(特 別重点)調査後、 契約した件数	低入札(重点)調 査で契約した件 数 (⑤)	低入札(特別重 点)調査で契約し た件数 (⑥)
一般土木	280	280	46	16.4%	46	0	0	0	0	0
鋼橋上部	17	17	1	5.9%	1	0	0	0	0	0
造園	21	15	3	20.0%	0	2	2	0	1	0
建築	27	25	9	36.0%	6	3	3	0	0	0
電気設備	27	25	5	20.0%	4	1	1	0	0	0
プレストレスト・コンクリート	24	24	3	12.5%	3	0	0	0	0	0
塗装	22	19	5	26.3%	5	0	0	0	0	0
維持修繕	254	185	8	4.3%	8	0	0	0	0	0
港湾空港関係	36	35	6	17.1%	6	0	0	0	0	0
その他	167	165	8	4.8%	8	0	0	0	0	0
計	875	790	94	11.9%	87	6	6	0	1	0

(出典:中国地方整備局調べ)